

「CS便」エリア拡大

専用定温車両を順次導入

ダイセーログ

ダイセーログステイクス（永田勝志社長、東京都文京区）は、菓子の共同配送サービス「CS便」の対象

エリアについては、グループのダイセーエフリー二十四（田中孝昌社長、愛知県一宮市）と連携した拡大を目標している。

を、関東から東北、中京など各エリアに拡大する。定温管理が必要な菓子類を取り込むため、関東エリア2か所の物流センターで今月から、専用車20両を順次導入。来年夏をメドに、埼玉県杉戸町の共配物流センタ

隣接地に、定温施設を備えた物流センターの増設を予定している。杉戸町、神奈川県厚木市の2か所の物流センターを拠点に、関東1都6件の共配サービスを提供。7月には協力会社とタイアップし、東北エリア向けのCS便ネットワークを構築した。甲信越、静岡、中京地区へと対象を広げ、関西工

業については、グループのダイセーエフリーは、これまでドライを主体とし、メーカー15社が参加。一方、ダイセーエフリーはチルド輸送がメインで、菓子共配は3社程度と実績が少ない。両社のノウハウと



情報を共有化し、関西エリアを開拓するため、先月からキックオフ。将来的には、

寝台スペースを省き、積載率を向上させた専用車

東北―近畿エリアまでの広域CS便ネットワークを実現したい考えだ。

CS便の対象を定温菓子に広げるため、関東エリアで専用定温車両を導入した。新規顧客および既存顧客のチョコレート、チョコレート含有菓子、グミキャンデーなど定温管理が必要な菓子類をCS便に誘致するのが狙い。セ氏15度設定の4ト車で、積載率を向上させるために運転席後ろの寝台スペースを省き、庫内

（内寸）の長さ7尺、積載重量3ト100キを確保している。

CS便は売上高全体の15%以上を占める中核事業となりつつあるが、少子化や人口減少など菓子類の消費減も予想される。CS便の倉庫管理システム（WMS）の刷新も計画しており、鮮度管理やトレーサビリティ（履歴管理）機能を充実。

「当面の目標では、CS便の参加メーカーを現在の倍の30社に増やしたい」（深沢健・執行役員CS便事業部長）としている。

（石井 麻里）

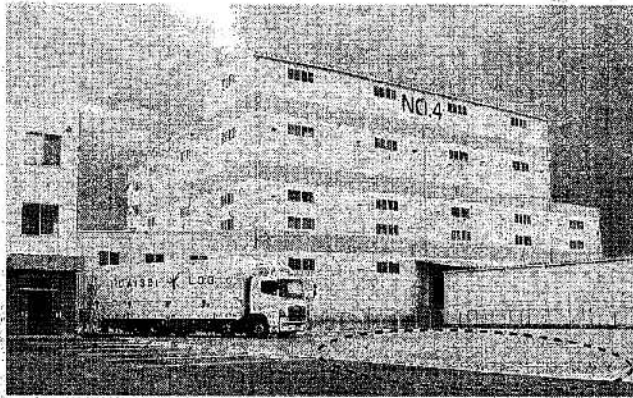
菓子共配「CS便」拡大

ダイセーログ

東北エリアに拠点開設

チヨコレイト事業参入へ

【石井麻里】ダイセーログシステム(ダイセーログ、永田勝志社長、東京都文京区)は、菓子の共同配送サービス「CS便」を拡大する。早ければ来年には、関東1都6県のサービスの東北6県に広げるため、東北エリアに物流センターを開設。現在はドライが中心だが、埼玉県杉戸町の共配物流センター隣接地に、定温設備を備えた物流センターを増設するとともに専用車両を投入し、再来年夏からチヨコレイトの共配を本稼働させる。



埼玉県杉戸町の駐車場に増設

共配のスタート当初は、菓子に限らず食品全般を扱っていたが、5年ほど前からターゲットを菓子に絞り込んだ。売上高全体の2割を占め、同社の中核ビジネスである菓子共配をCS便としてシステム化し、メーカーに提案。14社が参加している。

現在、2か所(杉戸町・神奈川県厚木)の物流センターを軸に、関東1都6県の配送エリアを対象にサービスを提供。「TC(通過型拠点)」と「DC(在庫型拠点)」の両方に対応し、

では、車両の積載率アップや納品先で車両数が減ること、待機ロスの解消につながる。

同社によると、これまではドライのみの扱いで、一部のチルド品などは協力会社に委託しており、「一歩前に出られなかった」(田浦辰也・専務事業本部長)。

そこで杉戸第4ハブセンターと杉戸R&Dセンター間の駐車場敷地に、定温機能を備えた物流センターを新設。延べ床面積5000平方メートルの2階建てを想定している。

菓子業界では、夏場にチヨコレイト関係を特別積合せ便やクール宅配便などで運んでいるケースが多く、物流コストアップの要因となっている。これらに代わる輸送手段としてCS便を提案し定温機能を確保し、積載率の向上にこだわった専用車両を開発して順次投入する。取扱商品でチヨコレイトの比率を高めることで「チヨコレイトビジネス」を軌道に乗せる。

また現在、共配エリアは関東1都6県となっているが、メーカーのニーズに合わせてエリアを拡充する。第一弾として、来年をメドに、東北6県を対象としてCS便を展開していくため、物流センターの開設を計画している。北海道、仙台のグループ会社とも連携し、東日本エリアでの共配網を構築する。積極的な設備投資により、CS便を事業の柱として成長させる考えだ。

配送先(コンビニエンスストア、量販店、菓子卸の物流センター)への共配を実施する。メーカー工場・ストックポイント(SP)への集荷(別料金)も行なう。トータルに請け負う。

参加メーカーは①共同化による物流コスト削減②品質の標準化③業界全体の物流効率化による環境負荷低減④物流工程(作業・管理)の削減——などのメリットがあるほか、荷受け側の物流センターも一括納品による人件費の圧縮といった合理化が可能。ダイセーログ